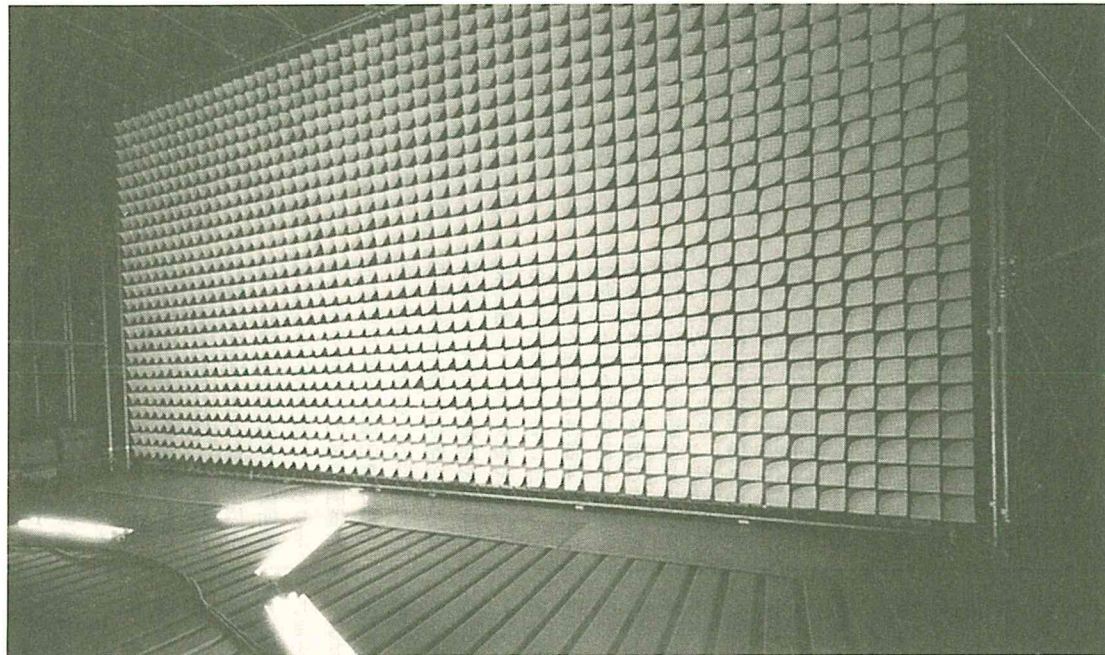


筆山

第24号 / 1998・1

土佐中・高同窓会 関東支部会報 編集人/藤宗 俊一(42回)

〒106 東京都港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 ☎03-3587-6200/FAX03-3587-6201



元母校美術教諭高崎元尚先生(16回)の個展が、平成9年11月8日より約二週間にわたり、大阪市中央区南船場四丁目の関西支部事務局のそばにあるLADSギャラリで開催された。

先生のこれまでの足跡を凝縮するように、一九五〇年代の初期の作品から、平成九年の高知県展作品まで二九点が展示されていた。

今なお我々の記憶に鮮明な初期の平面作品「朱と緑」、黒の台紙の上に反った白い正方形がいくつも整然と並べられている六十年代から現在に至る作品シリーズ「装置」、七八年に兵庫県立近代美術館企画展「アート・ナウ」に招かれた際の作品でコンクリート片を敷き詰めた「Collapse」(写真展示)等の作品が、七十歳を越えた今でも前衛であり続け、高知県の現代芸術をリードする高崎先生の、『魂のほとばしり』を感じさせていた。

同窓会各支部から寄せられた祝電や花束がいつぱいの会場は、連日多くのファンで賑わっていたが、初日のオープニングパーティーには、教え子、同窓生が数多く駆けつけ、夜の更けるまで美術談義や高校時代の美術の時間の思い出話に花が咲き、この時ばかりは先生の風貌そのままの暖かい空気に包まれていた。

先生も、教え子の中から、田島征彦さん・征三さん兄弟(34回)、合田佐和子さん(34回)、西村繁男さん(40回)、向井隆豊さん(44回生)等が、アカデミズムではなく、それぞれが全く独創的な画風を磨いている事を、殊のほかお喜びであった。

次回はぜひ関東でも開催して下さいよう、事務局よりお願いしてきた。

なお、先生の展覧会は昨年の12月6日から今年の2月22日まで土佐山田町の町立美術館で開催されているので、帰省の折には皆さんぜひ立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

と叫ぶありさまでした。久しぶりに興奮した、と言つては少々大袈裟ですが、それに近いインパクトはありました。有り難う……しばらくは同窓会のとぎの写真を載せておいてください。お願いします。」

9年2月にメーリングリストができ、メンバーも10人20人と増えている時、恩師永野先生の訃報に接することにいった。

神戸で起きた少年の連続殺人事件では、教育論やマスコミ論だけでなく、受験期にある我が子との対峙の仕方、帰国子女の親の体験からの彼我の子供の社会への対応力の差といった、身の丈にあった議論に白熱した。筆山23号に掲載された53回生市川直介氏の「母校への提言」に関しては、土佐高生を子に持つ親の目に写る日常や、地元発の種々の情報の提供があり、同窓生としてそれぞれの立場からどんな手助けができるのかの議論が重ねられた。

かと思えば、中学高校時代の写真をネット上に流して大笑いしたり、その中に運動会の『やぐら』の写真を見つけ、苦労話や自慢話、もう時効だろうという武勇伝に花が咲いた。

たりもした。夏の甲子園トトカルチョ、忘れかけた土佐弁クイズに興じたかと思えば、よいよい俳句集や、読み応え充分の紀行文の投稿もあり、日本各地はおろか、遠くニューヨーク、北京からも日々20、30通の土佐弁メールが飛び交った。それは30数年前の「休み時間」にした教室や廊下でのお喋りタイムの再現のようだった。

9年5月の関東支部総会には、高知・広島・関西からも集合し、初の「よいよい総会」が行われ、これを機に関東・関西では『遠足』と称する会合が度々持たれ、高知では月例会が定期的に開催されるようになった。

会社のパソコンの前で仕事の振りをしながら笑いをこらえているサラリーマン。家族の寝静まった深夜に黙々とキーボードに向かうおばさん。新幹線車中で携帯電話片手にノートパソコンを叩くビジネスマン。公衆電話にコードを繋ぎ不信な行動をとる中年男。この一見怪しげな「よいよい人」達の目下の最大の関心事は、

「土佐高にホームページを！」である。

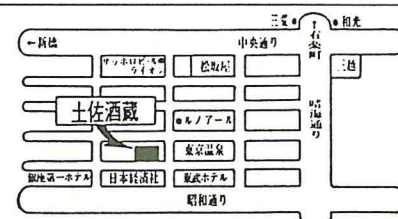
土佐塾高や明德義塾のHPを見るにつけ、淋しくもあり歯がゆくもある。今インターネットからあらゆる情報を手に入れる事が出来るし、インターネットを通して土佐高を全世界にアピールする事もできる。

母校にもきつと関心のある先生方や生徒諸君がいるはずである。資金面、ハード・ソフトの問題。あらゆる面での援助は惜しまない。昔は敷居の高かった職員室に呼び出されるのを、今か、いまかと待っている現在35名のおじさん、おばさんであります。

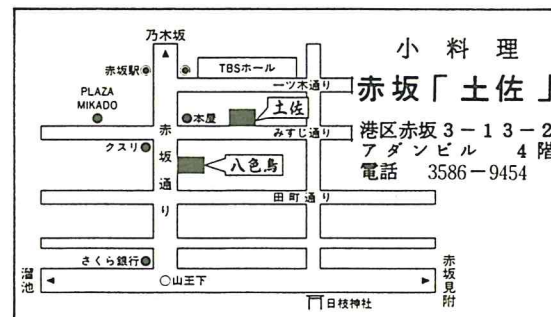
TONTON カラオケ・スナック

幸田みどり
(土佐女子出身)

〒160 東京都新宿区歌舞伎町2-46-7 第三平沢ビル7F
TEL 3205-3177 (西武新宿線北口前)

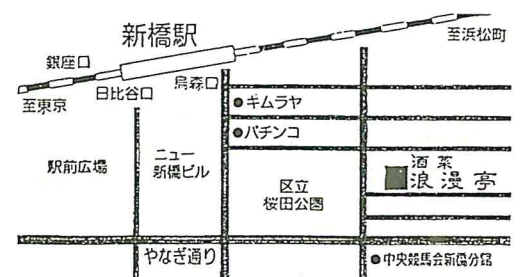


季節のふるさとの味
友野本社ビル
銀座7-12-4 (サンリード地階)
電3545-3855銀座第一ホテル通り



割烹風居酒屋 酒菜浪漫亭

新橋店/〒105 東京都港区新橋4-14-7 Tel. (03) 3432-5666
Fax. (03) 3432-5720



■営業時間/(月～金) PM5:00～PM11:00 (土・日・祝) PM5:00～PM10:00 (予約オーダーPM 9:00)
■定休日/日曜日・祝日
本店/高知市追手筋1-3-23 Tel. (0898) 73-0137
廿代店/高知市廿代町2-17 Tel. (0898) 73-8400



土佐中・高同窓会長に就任して 岡村 甫 (32回生・東京大学工学部長)

前会長で土佐高校の恩師でもある町田先生からこのお話が最初にあつた際は、軽い打診だと思ひ、当然のことながらお断りいたしました。適任の先輩方が数多くおられることも承知していただくです。また、私は、今まで土佐中・高の同窓会とは距離を置いて接してきました。学年幹事となつた

こともなく、また、所属している関東支部にいても何の役割もしてまいりませんでした。このような役割は、私に向いていないと承知していたからです。

町田前会長は、地元土佐山田町の町長として、高知工科大学の理事をされており、この大学に深く関わり合つてきた私は何回かお目にかかる機会がありました。お会いする度にこの話がでるうちに、お引き受けしないのは心苦しくなつてまいりました。私の今日があるのは、土佐中学・高校での楽しい6年間があつたればこそであり、私のできる方法での恩返しをする気持ちもなくはありませんでした。最終的には、地元の岡内紀雄幹事長をはじめとする同窓会役員の方々に全面的にお任せし、私は一年に二、三回、帰郷すれば良いということで、この大任をお引き受けすることに致しました。

もできないというのが、良くも悪くも私の性格です。伝統とかしきたりとかについてもよく知らない上に、あまり大事にしないで生きてきました。同窓会の役目は、会員相互の親睦を図ること、土佐中学・高校への蔭からの援助を行うことだと理解しております。毎年夏休みの総会開催および五年毎の名簿の発行が主たる業務であるとの話でした。現在まで一度だけ開かれた役員会で、来年の総会を土佐高校で開くことと会報を発行することが決まりました。

事務局を引き受けてはや五年、関東支部のこれ以上の地盤沈下を防ぐためにも、そろそろ潮時を見極めるべき時期に來た事務局より、平成九年夏以降の出来事をお知らせ致します。

8月2日(土) 高知新阪急ホテルで行われた本部同窓会総会には、溝渕幹事長、佐々木・窪田・二宮・市川各副幹事長、事務局鶴和が出席しました。総会に先立つ本部・支部連絡協議会では、市川副幹事長より、文武共に低迷する母校への協力体制、硬直した同窓会組織の改革等につき、鋭い提案がなされ、続く総会では、関東支部の岡村甫さん(32回)が同窓会会長に選任され、改めて関東支部の存在の大きさが、確認された感がありました。

「5月に代々木で」がすっかり定着した関東支部総会には、平成10年5月23日(土)オリピック記念青少年総合センターで開催致します。今回もまた新卒業生(73回生)を多数招待する予定です。

●平成10年関東支部総会
「事務局より」前回の名簿発行には約五十万円かかりました。皆さんの現住所等の情報と共に、年会費の納入が名簿発行の重要なファクターです。ご協力宜しくお願い致します。

●平成10年関東支部総会
「事務局より」前回の名簿発行には約五十万円かかりました。皆さんの現住所等の情報と共に、年会費の納入が名簿発行の重要なファクターです。ご協力宜しくお願い致します。

関東支部活動報告

ク青少年センターで学年幹事会が開催され、以下の事項が決まりました。

●関東支部名簿改訂版発行
大石名簿担当幹事(40回)

より、既に40%の内容が更新されている、現在の関東支部名簿を改訂したいとの提案があり、より正確な名簿を同窓生の元に届けたいという大石さんの熱意に、幹事全員が賛同し、平成十年夏をめどに改訂版を発行することが決定された。

「事務局より」前回の名簿発行には約五十万円かかりました。皆さんの現住所等の情報と共に、年会費の納入が名簿発行の重要なファクターです。ご協力宜しくお願い致します。

●平成10年関東支部総会
「事務局より」前回の名簿発行には約五十万円かかりました。皆さんの現住所等の情報と共に、年会費の納入が名簿発行の重要なファクターです。ご協力宜しくお願い致します。

というところだろう。

ところで中学の後輩で、同窓会の手伝いをしてる友人がいる。彼は仕事柄不在が多く、なかなか連絡がとれない。そこで彼の携帯の番号を聞いておいた。

去八月のはじめ、用を思い立ち彼の携帯に電話すると、すぐ繋がった。用がすんだあと彼はおもむろに云った。

「先輩、今私がどこにおると思います? 高知ですが、高知に來ちますが……」

高知? 何の用かヨ、と私も土佐弁で反応する。母校の同窓会の総会に、東京から出席していると云う。高知と聞いて、思わず中学の仲間のことや、復刊した「三根先生追悼誌」の感想や、次から次へ話が弾み、思わぬ長電話になった。

さて、そこで、だ。この場合のように、所在不特定の相手を手即座にキャッチして用が足せる携帯の効用を良しとするか、平素からカミさんの長電話を戒める立場の私としたことが、携帯を使って用済みのあと、つい彼を長電話に誘ったことを、私は重じゅう責められるべきか。その功罪ははてどんなものだろう。

4141ネット

一周年に寄せて

筆山23号「カエル逝く、情報刻々41回ネットより」で紹介された41回生のメーリングリスト、その名も『4141(よいよい)ネット』が誕生して一年が経った。ネットに起きたこの一年の出来事を紹介してみよう。

平成8年5月に山崎郁太郎が開いたホームページへのアクセスが、爆発的に増えたのは「久し振りに興奮したぞ」と題する近藤雅彦のメールがきっかけだった。

「お久しぶりです。5月25日の大同窓会の時以来ですが、お元気にご活躍の事と思います……6月頃二宮君から便りがあり、貴方の会社のホームページに41回生の欄があつて同窓会の写真が載っていると事でしたので……ホームページを見ると……41回生の情報まで出てくるし、なんとNホームの写真まで有り、生まれてはじめて自分の顔をインターネットで見ることが出来ました。子どもみたいに大声で女房を呼び『見て! 見て!』

住まいの情報センター
ミツワ ホームサービス
MITSUWA HOME SERVICE

代表取締役 **中屋隆彦** (41回生)

〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷2-13-1 平沼ビル・幡ヶ谷北口駅前
TEL (03) 3320-0320 FAX (03) 3378-7097

有限会社 **和久**
橋梁の計画・設計

小松三男 (41回生)

〒236 横浜市金沢区釜利谷南2-24-4
TEL 045-782-1008
FAX 045-782-9145

ある雑誌に載つた山藤章二さんの絵入りエッセイに登場する、深川生まれの浅草育ち、九十五歳の元表具師のあける気焔が面白い。それに、その見識が老いてなおまっとうなものだ。

「昔、少年倶楽部で本があつたら、その頃の少年てのがホンモノの少年なんだヨ」と元表具師の老人は古きよき時代への郷愁をかくさない。話が昔の少年ならぬ今どきの若者のことに及ぶと、例えば携帯電話と彼等との係わりについて、老人の叱言はきびしい。

「もひとつ分からねエ。ガキのくせにみな一台ずつ電話を持つてやがる。何だい、アレは。それもヨ、タチのよくない連中が携帯電話でしめし合せて、ベンチの酔払いや段ボールの中で寝る住人を、よつてたかつてぶん殴つて喜んでるてじゃないか。」

若者が、無抵抗な大人をいたぶるなど、もつての外だが、それも携帯という平成の道具を使つて、いとも手軽に遊び半分に悪さするのがゆるせねエ、と元表具師は息まく。携帯電話は急速に普及して今ではファッションにまでな



泣き虫 怒り虫 携帯電話の功罪 十回生 立仙 浩一

す、と威張るが、もし携帯があれば、一発で判る。駅の待合せなどで行違つて待ちぼうけを食うこともない。

それよりも、例えば出先で事故に遭う、路上で転倒して怪我をする。辺りに人がいない。公衆電話もない。そんな時携帯のお陰ですぐ連絡がとれ、命拾ひすることだってある。

携帯電話の功罪は、要は使いどき、使いどころによる、

々に懇親会の企画運営をお願いいたします。斬新なアイデア、楽しいアトラクションが計画されていますので、ご期待下さい。多数の同窓生のご参加をお待ちしています。

● 関東支部役員留任

任期満了に伴う支部役員の変更は、全役員の再選が決定され、5月の総会で承認を受け、新たな二年の任期がスタートすることとなる。

支部長 宮地 貫一 (21回)

幹事長 溝淵 真清 (32回)

副幹事長 佐々木 泰子 (33回)

窪田 秀忠 (38回)

岩村 康生 (41回)

二宮 潔 (49回)

市川 直介 (53回)

吉井 雄二 (49回)

山本 高敬 (25回)

吉野 保徳 (31回)

鶴和 千秋 (41回)

小島 三郎 (40回)

藤宗 俊一 (42回)

筆山 担当

事務局 名簿担当

「(事務局より)現在の役員の方々は公務多忙の中、既に長期にわたり自己を犠牲にして、関東支部のために力を尽くして下さっています。あとを引き継いで頂ける方が一日でも早く登場して下さることを期待して止みません。」

母校だより

校長 森田 幸雄

例のエル・ニーニョ現象の悪戯か、思いがけない陽気が続き、制服の冬への切替えが十日以上遅れ、11月1日から実施という珍しい事態となりました。

さて二学期も半ば以上経過しましたが、学校行事は現在まで順調に執行されており、これも日頃の皆様方のご声援の賜物と存じ厚く御礼申し上げます。先ず最大の学校行事である中高合同の運動会は、生徒諸君の積極的協力のもと、9月24日無事終了しました。直前の豪雨により一日順延という羽目となり、少々の戸惑いもありましたが、当日は絶好の秋日和に恵まれ、生徒教員一体となって伝統の爽やか運動会を江湖に披露できたことは嬉しい限りでした。特に今回は実行委員会の正及び副会長のポストが共に高三の女子生徒で占められ、加えて紫組応援団長も女子生徒と正に土佐のハチキンパワー全快というべき頼もしい様相となりました。第五十回という節目にふさわしい快事として拍手を送ったところですが、

次には10月には中学時代締め括りの行事である修学旅行が実施され、九州・周四泊五日間の集団宿泊研修が恙無く終了いたしました。この学習活動の効果が今後如何ように現れてまいるか注目しているところです。

さていよいよ勉学は勿論、文化、芸術、スポーツ等各分野で飛躍的發展を遂げるべき好機に入りました。特に大学進学面については、目前に迫ったセンター試験を始めとする数々の試験に果敢に挑戦し、先ずは現役合格を向上させ、それもワンランク・UPの志望達成を念頭に学校体制で取り組みを進めているところであり、何卒先輩各位の厳しくもまた暖かいご声援をお願い申し上げます。おって本年度の入試センター試験出願者数は二六六名(約九十%)で例年並みでありました。これに浪人生諸君の出願が加わりますが、現浪生共々今後の力強いダッシュを信じ賭けてみたいと思っているところです。

ところで11月2日、高知城下藤並の森に県立文学館が開館いたしました。地方の文化施設としては充実度の高いすぐれものという評価のようすが、ご帰高の折りには是非お立ち寄りの上で観覧の程お勧めいたします。実はこの準備段階で係官が来校、29回生倉橋由美子さん、51回生の坂東眞砂子さん、両作家の紹介展示を行いたい旨予告があつておりました。坂東さんについては既にミニ企画展が開催されており、学校としてもこの機会に多くの理解者が得られるよう声援してまいりたいと考えています。また続いて倉橋由美子作品世界の紹介も、と要望していただいております。

と要望していただいております。

私、昭和48年に土佐高を卒業しました。ちょうどその年に母校将棋部が発足したのと思いますが、中・高校時代に部活動ができなかったことを非常に残念に思っています。さて、将棋に少しでも興味のある方、あるいはこれからやってみようと思う方、もちろん現在もやっている方へ、一度集まって「将棋なかま」をつくってみませんか。将棋という趣味を通じて、話し合ったり、飲んだり、仲間づくりを趣旨として、都内で発足会を開きたいと思っておりますので、どしどし参加下さい。お申し込み、ご連絡は下記中井までお願いします。

記

〒300-15 茨城県北相馬郡藤代町桜が丘3-18-5 中井知章 (48回生)

携帯電話 010-841-6396

将棋なかまへのお誘い

とさせていただきます。

本 部 だ よ り

幹事長 岡内 紀雄 (34回)

平成9年8月2日(土)午後3時より、高知新阪急ホテルにおいて、72回生を含む多数の出席を得て、総会、記念講演ならびに懇親会が盛大に開催されました。

総会では役員の改選が行われ、予め町田守正会長(16回)から委嘱を受けた役員選挙委員会での選挙結果が濱田義文

アポロン独和辞典 刊行

株式会社 同 学 社

取締役社長 近藤 久寿治 (6回生)

〒112-0005 東京都文京区水道1-10-7 電話 (03)3816-7011 (〒112)

財団法人 放送大学教育振興会

理事長 宮地 貫一 (21回生)

東京都港区虎ノ門1丁目14-1 〒105 郵政互助会琴平ビル3階 電話 (03)3502-2750(代表)

三菱石油株式会社

社 長 泉 谷 良 彦 (29回生)

〒105-8457 東京都港区虎ノ門一丁目2番6号 電話 東京 (03)5521-2005

株式会社 くもん出版

中 城 正 堯 (30回生)

〒102 東京都千代田区富士見1-12-21 BR九段1 TEL (03)3239-1427(直) FAX (03)3234-4018

株式会社 日本テクナート

TECHNART

代表取締役 小島 三 郎 (40回生)

取締役営業部長 門田 健 一 (43回生)

監 査 役 小島 修 子 (43回生)

〒164 東京都中野区南台5-27-32 TEL.03-3384-8220(代)

作曲・指揮 平井 康三郎 (5回生)

詩と音楽の会々長・ジャズラック評議員

チェロ・作曲 平井 丈一朗

カルザス高第・国連シンフォニー顧問

指揮・作曲 平井 秀明

チェコヴァルトウオーシ管弦楽団首席指揮者

月島機械株式会社

監 査 役 吉 澤 信 一 (16回生)

〒104 東京都中央区佃2-17-15 TEL.03-5560-6512

壺坂電機株式会社

代表取締役 壺 坂 博 文 艶子 (28回生)

〒192 東京都八王子市石川町1683-1 ☎ (0426) 46-1127(代) FAX 46-1834

東京エアゾル化学株式会社

代表取締役社長 浅 井 伴 泰 (30回生)

本 社 東京都豊島区南池袋1-25-9 今井ビル8階 (〒171-0022) 電話03-3984-2081 FAX 03-3984-1713 営業所 大阪/ 工場=埼玉・岐阜

ルイ・ヴィトン ジャパン株式会社

ロエベ ジャパン株式会社

代表取締役社長 秦 郷次郎 (31回生)

〒107 東京都港区南青山1-1-1 青山ツイン 電話 (03) 3478-3694

委員長(22回)から発表され、異議なく原案通り選任されました。新役員は、次の方々です。(敬称略)

会長 岡村 甫 (32回)
副会長 山崎 和孝(26回)
〃 浅井 伴泰(30回)
〃 大久保浩二(32回)
〃 森木 房恵(39回)
〃 川崎 康正(42回)
幹事長 岡内 紀雄(34回)
副幹事長 永野 和宏(34回)
〃 横田 整二(40回)
〃 西山 彰一(48回)
会計 千頭 裕(58回)
会計監査 森木 将雄(32回)
〃 田中 章夫(40回)

会長をはじめ役員の若返りが計られたことから、同窓会活動の更なる活性化に期待が寄せられています。

記念講演は、24回生で精神医学の第一人者である大原健士郎氏(浜松医大名誉教授)による「今日を生きる・森田正馬の世界」という演題で、日本精神医学の草分け的存在である森田正馬(まさたけ)氏(香美郡野市町出身)の孫弟子として、「森田療法」を受け継ぎ「限られた人生に不安や悩みはつきもの。打開していくには、それをそのまま受け入れ、目的をもった行動

をとることが大切だ。これが森田療法という『あるがまま』である。」と述べられ、ひと味違う人生訓を含んだご講話に感銘を受けました。

懇親会は、松浦前校長、森田現校長をはじめ、中沢先生、高崎先生他多数の先生方も出席され、ソフトテニス部OB会の心のこもった司会進行のもと、和気あいあいのうちに新旧同袍盃を交わし、応援歌を合唱してお開きとなりました。

なお、来年の総会は8月8日(土)に開催することになっています。関東支部のみなさまの多数のご参加をお待ちしています。

東海支部だより

「あつという間にお正月」
事務局 南 毅一(37回)

一年はまことに早い。つい先日、東海支部会報「わかしやち」を産みの苦しみで創刊したのに、もう二号の準備に入った。サッカーワールドカップ予選などあり、久し振りに時間を意識した緊張感のある年であった。

わが東海支部も5月の総会には森田校長にご出席いただき『ピリッ』とした。学校の

現状などお聞きすると、後輩学生諸君も頑張っている由で合格率も大幅にアップしたとか。懇親会でのお酒も美味しかった。

8月の本部総会には松崎支部長と南事務局長の二名も大所帯の支部並みに出席させていただいた。大感激であった。特に大原健士郎先生(24回生)の記念講演はよかった。あくる日「大橋通り」で『テンブラ』を買おうとされている大原先生にバツタリお会いしたり、また帰りの高知空港でも会ったりで楽しかった。高知は狭い。悪いことしたらイカンとも思った。

それから、平成九年より集める事になった支部会費。納入率約45%と低い。国家の財政ならパンクである。忘年懇親会(12月6日)の席上、支部長よりハッパをかけていただくこととする。平成九年はまっこと早くて忙しい・・・

関西支部だより

事務局 竹原 暢子(28回)
11月に入ってもいつまでも暖かさの残る秋ですが15日になりましたと御堂筋の銀杏もそろそろ黄金色に変わってきました。

さて本年度後半の関西支部便りをお届けします。

一、7月初旬『なんぶう』第18号を会員千四百名と本部、各支部、母校に配布。いつも乍ら若い世代の異動の多さに驚きます。今回も六十余通の返却あり。

二、8月2日午後にかれた本部総会に元支部長北村旦先輩(18回)と事務局竹原暢子出席。午前中二人して母校を訪ね夏休み中にも拘らず練習、補習に頑張っている後輩達に逢いました。総会に先立って本部、各支部の方々と交流の時を頂きました。

三、9月18日に事務局にて幹事会を開く。

①平成10年の新年パーティーを次のように決定。

平成10年1月31日(土)

ホテルグランヴィア大阪

②関西支部の会則原案を作成四、シニアクラブ……13回生の葛目先輩を中心に月一回の囲碁の会を事務局のサロンで開催。

広島支部だより

事務局 小島 康(37回)
事務局から眺望する宮島は大河ドラマ「毛利元就」チームと紅葉狩りで、連日島が沈

まんばかりの賑わいです。時折ペンを描き、そんな宮島と穏やかな瀬戸の海を愛でつつ「筆山」23号以降の支部活動をご報告致します。

5月、関東支部、東海支部、8月、本部総会に出席。

9月6日に「夏の集い」開催。生憎終日雨でしたが、観光バスで、月の桂の庭、天満宮、阿弥陀寺、国分寺、毛利氏庭園、同博物館など、防府の史跡巡りをしました。いつも広島組に合わせたいだいてる山口組のことを考慮しての企画です。

月の桂の庭には、桂浜の五色石、大歩危、小歩危の石も庭石として配置されていると、バスガイドさんの説明に、土佐っ子は身を乗り出して色めき立ちました。

お仕事多忙にて、今回は欠席されました広島支部名誉会員、竹村照雄先輩(20回)に事後報告を致しましたら「ダイアナ妃のような生き方、マザーテレサのような生きさ、元就の時代の人々の人生、今の我々として歴史の一コマの存在です。たとえ全く無名でも、その一生は掛替のないもの。小さくても自分の役割に徹し、それを集積して大衆

名所江戸百景 散歩

「駒形」

七月に転勤で広島支部より関東支部に移ってきました。単身赴任を利用して十六年ぶりの東京を見直してやろうと思ひ、ほんの何冊かの本と共に安藤広重の「名所江戸百景」百十九景の複製画と尾張屋清七板の「江戸切絵図」(天保頃

の江戸古地図)と現在の東京の区分地図を持ってやって来ました。秋晴れの日、都営地下鉄に乗り、浅草で下車。素晴らしい秋日和。しかし日は短い。

広重の「百景」には浅草寺界隈は二図あり。「駒形堂吾妻橋」そして集中屈指の傑作「浅草金龍山」。広重の「名所江戸百景」は「東海道五十三次」「木曾街道六十九次」と併せ世界的な名作揃いである。

安藤(歌川) 広重は日本橋を一寸南へ下った南伝馬町の東海道を挟んだ向かい側の大鋸町に娘と二人でつましく暮らしていた。豆腐が大好きで湯豆腐で晩酌をやるのが無上の楽しみだった。葛飾北斎の名

「堂」

41回生 西岡 恒憲

うになりながら、懸命に独自の画境を模索し、飛び抜けて澄明な、高い叙情性をたたえた風景版画を残した。

「駒形堂吾妻橋」は雨の夕景で、左下に四分の一程見える駒形堂が小さく描かれ、画面中央下に左右にゆつたりと流れる大河隅田川、その流れに荷舟や筏を浮かべ生活を立てる人々、左の方に吾妻橋が架かっている。向こう岸は本所の家並みが描かれ、画面上三分の二は雨で暗くなった空が描かれている。その空を一羽のほととぎすが鋭い鳴き声を発して横切っている。

先に浅草寺と三社権現を探索し、辺りが薄闇に包まれた頃、歩いて雷門より半町ほど南の駒形堂へ。浅草寺の喧騒に比べて何と静かな場所だろう。小さな児童公園ほどの敷地に五米四方ほどの駒形堂が無人でひっそりと立っている。ご本尊は馬頭観音。今の駒形堂は、広重の絵に描かれたも

のが関東大震災で焼失し、昭和八年に元の場所より五十米北に再建されたもの。絵を持つてきているので、広重と同じ視点から見比べてみた。隅田川の形も左方の吾妻橋の位置も絵と全く同じ。少し感動した。とつぷりと日が暮れるまで同じ所に立って眺めていた。

駒形といえば、吉原の遊女二代目高尾(紺屋高尾)の余りにも有名な俳句が思い出される。つい今しがた別れを惜しんだばかりの伊達綱宗公に送った手紙の中にある句だ。

ぬしはいま こまかたあたり ほととぎす
伊達綱宗は仙台伊達騒動の中心人物の一人であるが、そもそもこの吉原通いが伊達騒動の原因の一つだった。歌舞伎の「伽羅先代萩」は伊達騒動を題材にしたもの。江戸の昔、新吉原へ通う通人達は駒形堂の前の浅草川(隅田川)を猪牙舟で往復した。

すっかり暗くなったので晩飯を食おうと思い、先に見つけておいた駒形堂の東隣の「駒形むぎとろ」という割烹風の店へ入った。江戸風の粋な造りの店だが「駒形むぎとろ」というのは余り聞いた事がない。お品書きを見ると、何と、とろろ(やまのいも)の料理ばかり。驚いた。「むぎとろ」を注文したら、お櫃に入った麦飯と大きなどんぶり山盛りのとろろが出てきた。麦飯を茶碗によそい、杓子でどんぶりからすくったとろろをどぼとどぼと食べて食う。何と、これが減多やたらとうまい。とろろの味付けが絶妙だ。千八百



ぜう汁「どぜうなべ」と書かれている。今しも一人の客が出てきた。開いた戸口から柳川の匂いが漂う。竿灯の更に左に、やはり浅草生まれの江戸っ子、久保田万太郎の句碑がある。暗かったから読み間違っているかも知れないが、

神輿まつまの どぜう汁

すゝりけり この神輿は三社祭の神輿のこと。すっかり深まった秋の気配を感じながら帰ってきた。駒形堂に吹く大川の風の秋めいたるを見て、

銀杏の秋も 遠からず

思い出すままに

二三回生 岡崎 昌生

今年、一九九七年、私たちが23回生が土佐中学校五年（旧制）を卒業して五十年目。確かに長い年月であったが、あつと言う間経ってしまった気がする。この機会に土佐中時代を思い出すままに……。

入学したのは、昭和17年、その前年の12月には太平洋戦争（当時は大東亜戦争と呼ばれていた）が始まり、ラジオでは軍艦マーチ、新聞は大きな活字で緒戦のはなばなしの戦果を報じていたが、南国高知では戦争からはほど遠い



入学早々、新生は、学問の神様・潮江天満宮に参詣するのが恒例であった。参拝後、門前で解散。同方向に帰る同級生四、

五人、天神橋を渡り、鏡川べりを下へ歩いて行くと、アベックがボート遊びをしている。誰いうともなくボートめがけて小石を投げ始めた。運悪く？そこに上級生が通りかかり「何をしようか」と一喝され、一同縮み上がった。翌日、早速、剣道場に呼び出され「土佐中生にあるまじき行い」と、厳しい叱責を受けた。以後、剣道場における上級生の『訓育』は折に触れてしばしば行われた。怖いことは怖かったが、決して陰湿なものではなく、今となっては子供からの脱皮の一過程と懐かしく思い出される。

授業は、四年分を三年いっぱい終わらせるとか、相当なスピードといわれたが、何分、総て初めて知ること、特に苦痛はなかった。

吉本カマス先生の代数幾何は小学校の算術と異なり、理論的というか大変解りやすく面白かった。ただ、先生のムチは、もちろん黒板を指していたが、生徒の頭上に来ることも多かった。

英語は、沖繩ご出身の平良先生。五月に入ると週始めに時々簡単なテストがあつた。「I am going to school」を

「私は学校に行きよります」と書いたところ、『答案に土佐弁はイカン』と減点された。国語は樋口先生。副読本の湯浅常山の『常山綺談』儒者の室鳩巢の『駁台雑話』での江戸時代の故事はいまだに思い出す。残念ながら、先生は冬二月肺炎で急逝された。生徒一同、江戸口の安楽寺本堂に正座し読経を聞いた。

国史は森下先生。当時のこと、皇国史観の色濃いものであった。

とまれ、一年、二年は、時に近郊農家への麦刈り、稲刈り、あるいは暗渠排水工事などの勤勞奉仕があつたものの、平常の通学生活を送った。

三年になって、戦局漸く激しく、上級生は県外の工場に、私たちは日章村の海軍飛行場（現高知空港）での奮かつぎ。四年になっては、下知のミロク製作所での鉄砲作り。通学ではなく、ほとんど通勤生活であった。

昭和二十年七月四日の高知大空襲で学校は全焼。そして八月十五日の終戦。戦後は、大津の舟戸小学校などでの間借り授業。そして、急造の春野町のバラック校舎で卒業を迎えた。

戦中、戦後の混乱の中での中学時代であつたが、読書や勉強についての基礎的なもの、デック・ワイゼカ、そのメトーデン・レーレといったものを養っていたこと、有り難く母校に感謝しているところである。

思えば、漢文の国見ヘンボ先生から習った『少年老い易く……』以来の「長い光陰」いかに空費してきたか、また私の力を伸ばしえなかつたか、慚愧の至り。今や古稀になんなんとし、白髪をいただき、『楷前の梧葉すでに秋声』であるが、『未だ醒めず池塘春草の夢』。まだ何かをやるという意欲は持っている次第である。

同級生の約二割十三名は既に鬼籍に入ったが、現在東京近辺には十一名健在、あるいは自適、あるいは未だに仕事を続けている。春秋二回、全員相集い、一々盃を傾けながら、越し方行く末を語り合っている。

母校の発展と同窓諸兄弟のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。

（平成丁丑晩秋・横浜大倉山の寓居にて）

のエネルギーにしたいものです。一と、腐敗、混沌した現在の世相の中で、ひとりひとりが胸に留めて、反省即実行しなければならぬ心の持ち方を説いたご返書をいただきました。

さて、平成10年1月24日（土）の広島支部総会は、十周年の節目を迎えます。そろそろ準備に取り掛からなければなりません。支部発足以来、支部運営に大いに尽力下さいました西岡恒憲氏（41回）が、単身赴任中にて広島不在です。（来春以降は貴支部に移籍されます。）氏の損失大なることを改めて痛感致しております。なお記念講演は福留脩文氏（37回、河川・土木学）を予定しています。

竹村照雄名誉会員にもぜひご出席いただき、いつものように、為になるお話を下さることを、広島支部の全員は願っています。皆様の参加を楽しみにしております。

香川支部だより

支部長 土田哲也（32回）
関東支部の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。香川支部も発足以来2

年目に入りました。1年を振り返りながら、ご挨拶を申し上げます。

5月25日の関東支部総会にお招きを受けまして、初めて出席させて頂きました。参加されていた人数の多かったこと、卒業回数が切れ目なくつながつていたこと、プログラムの内容が豊富で工夫されていたこと等、圧倒されました。今後とも益々発展されますよう祈念しております。また、5月に『三根先生追悼誌（昭和16年刊、復刻版）』をご寄贈賜り、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

香川支部は7月23日（水）に「土佐つ子」で、第2回の総会・懇親会を開きました。母校から松尾功祿教頭先生、本部から大久保浩二、永野和宏の両副幹事長に来賓として出席頂きました。会員の出席は30名でした。役員のうち2人が人事異動で他県へ転出しましたので改選を行い次の両名を新たに選出しました。

幹事長 武山 正人（40回）
監査 小野 明彦（46回）
懇親会には「土佐つ子」高知店の島井清英社長（40回）も特別参加され、高松店社長からは景品を提供して頂き、

高知に帰って行きたいお店

Vert Vert

はりまや橋のすぐ側、香川銀行高知支店を東へ200mのところ、とっても素敵なケーキ屋さんがオープンしました。『ヴェールヴェール』とは、クロード・モネ愛した緑色のピスタチオケーキの名前で、我らが同級生・勝木田（小野）泰子さんの御主人、オーナーシェフの慶弘さんの作り出すケーキは印象派のイメージそのままに、季節感あふれる豊かな風味のものばかりです。泰子さんは、ラッピングとショップコーディネイトが専門であり、店内にはきれいな包装紙やリボン、ブライダル用の小物も充実し、人柄のいい彼女がいろいろなギフトの相談に親切に対応してくれます。

御主人は私たちの間でも有名な美男子。オープンの日から毎日足繁くかよう奥様方も多数とか。殿方はやきもちを焼きたくなるかもしれませんが、故郷宮城を背にして東京から高知に移り住む決心をした彼に心からのエールを送ってあげて下さい。

人気商品はサクッとしたパイ地にエクレーをのせた、その名も『パイエクレア』。かつお節をふんだんに練り込んだ『パイ節』は、お土産にも喜ばれます。

空港に行く帰り道、ちょっと寄ってみて下さい。さわやかな緑の風がやさしくあなたを送りだしてくれるはずです。

西森 さと（57回）

Un cadeau de la terre en pleine nature.
Vert Vert
Pâtisserie・Proposition
ヴェール ヴェール



780-0822
高知市はりまや町
2丁目11-1
OPEN
10:00am～8:00pm
phone & fax
0888-82-3045
はりまや橋より徒歩2分

パティスリー・プロポジション ヴェール ヴェール

再会できました。今年、高速道路が高知から日本海まで直結し、来春には明石大橋が開通します。四国にも目を向けて応援して下さい。

同窓生会館建設基金

一、一二〇、八九五円
さらなるご協力を！



三七・三八回 富士山登頂記 「富士山はーい、いいか？」

38 回生 市原 真仁

高知から東京に出てきた我々のような田舎者にとって、富士山は日本の象徴であって生きているうちに一度は登ってみたい、いや登らねばならない山でありました。単に日本のおつぺんに一度でいいから立ってみたいというのではなく、日本人に生まれた証しを立てたい、義務を果たしたい、何かそんな気持ちさえ持っていたのです。

そのような崇高な目的を持った純粋土佐人の一行が、7月19日早朝、新宿住友ビル前の広場に集合しました。思い思いのリュックに登山靴、なかには運動靴の猛者もいます。ふだんは単なる酒飲みのおツサン、オバサン達が、この日ばかりは目を輝かせて、御来光の中、富士山頂にすくと立つ自分自身の姿を胸に描きながら、期待に胸をふくらませていたのです。

思えば三年ほど前でした。「俺らあも、もうまあ五十じやきに、記念にみんなあで富士山へ登らんかや。あんまり歳とったらいかにきに、今し

か行けんぞ。」酔っぱらいの言葉でしたが、私を含めてかなりの賛成がありました。実は私もご幼少の頃から富士山には人並み以上の憧れを持っていたのです。

昭和38年土佐高を卒業して受験のために上京した時、当時の特急列車の窓から、試験前に富士山を見たら不合格というジンクスがあったのに、わざとみんな「やっぱ富士山は格好いいねや。」などと大騒ぎをして、全員不合格になってしまった事もあって、なおさら私の胸の念が育っていました。

そんな山にこれからいよいよ登るのです。準備には十分お金をかけました。八王子と新宿のイシイススポーツに通って、いろいろの道具を買いそろえました。職場の知り合いから情報も仕入れました。靴はホーキンスのトレッキングシューズを超特価の6800円でゲットしました。リュックとヘッドランプは借り物にしました。まわりのみんなに言わ

れました。「ホントに登るの？やめといたほうがいいんじゃないの？」

カミさんと娘も誘いましたが、富士山の名前も知らないようで、無視されました。靴を慣らす練習は忙しくてできませんでした。一度だけ病院まで（私はこう見えても整形外科の医者なのです）履いて行きましたが20分間の車の運転の間だけのことでそこから練習したうちには入りません。そんな訳で登山前から靴ずれでは格好悪いと思って、新宿まではビーチサンダルで行きました。おまけに半ズボンです。自分でも山に行くのか、海水浴に行くのか、どうも変な感じでした。

我々が同志29人の中では幹事の岡田君、38回きつてのオシドリ夫婦の中島君、37回の橋田さんなどが奥様と同行。中村先輩はご主人と、なんと？？さんは娘さんまでいっしょ、我が家とはだいぶ違いますね。

たった一人経験者の三宅君は言いました。「富士山？そんなもん、しーよい、しーよい誰でも登れらーね、心配いらん。」

初日だったので新宿から五合目まで6時間半かかりました。記念写真を撮ったり、酸素ボンベを買い込んだり、もらった金剛杖に名前を書いたりしていよいよ登山開始です。多少曇ってしまいましたが暑くなくて丁度いい位です。

さてこの日富士山に登ったお調子者はいったい何人いたでしょうか？一説によれば8千人、別の情報によれば3万人、当事者の我々としては後者の方を信じたくなくらい

御来光に絶句

た。

五合目から登り始めて約4時間で今夜のお宿に到着しました。すでに西内カメさんを除く全員がグロッキーです。八合目ともなるとかなりの涼しさですが寒いほどではありません。宿は、来るべき地球最後の日に備えて、狭い面積にどれだけの人をつめこめるかの実験場なのでしょう。

何と人間一人は30×30センチあればとにかく寝られるのです。鼻をつまんでトイレに行くのも大切な修行です。小学校の運動会で、トイレですべってそのまま泣きながら家へ帰った、遠い日の悲しい出来事を思い出してしまいまし

山の上は人、人、人だらけ。元気が良かったのは初めての30分だけ、あとはもう人混みの中をすりぬけながら、木も草もない瓦礫の間を蛇行する登山道を、ただひたすら上へ上へと進むばかりで、要するにこれは登山ではなくて、真の日本人になるための厳しい修行なのだということによって、くここで気づいたのです。ミヤケ君、嘘をついたらいかんぞえ。

豪華な食堂？でハンバーグの夕食をとり6百円の缶ビール1本で神様と乾杯をしました。この食堂では一度に一三〇人ほどが、7時から11時頃まで次々に食事をとっていました。

ほとんどウルメ状態での数時間の休憩のあと、12時を過ぎてからいよいよ頂上を目指して再出発です。真夏の満月が頭上に輝く中を、延々と続く長蛇の列に混じって、ただ黙々と前進あるのみです。バスの中で誰かが言っておりました。「今日はイチチャンがおるき、みんなあ、主治

医つきて安心じや。」かく言う私がイチチャンであります。が、その私は訓練不足と靴ずれで案の定、もうほとんど死にかけていました。

山小屋でこのまま朝まで休んで、下山しようと思案に考えたくらいです。しかし富士山は私をしつこく呼んでいました。二人の西内君につられて歩き続けました。付き添い医の仕事は放棄しました。もう自分のことだけで精いっぱいだったのです。

しかし、あの御来光の美しさ、荘厳さは、今思い出しても身震いがするほどのす。すべての苦しさ、つらさはあの瞬間に消え去りました。1997年7月20日午前4時20分、東の雲海の中から暗れ渡った空に黄金の太陽が浮かび上がりました。私は頂上のわずかに50メートル下の岩に腰を下ろして、この無言のドラマをじつと眺めていました。何も考えられませんでした。富士山の東斜面の登山道を埋め尽くした何千、何万人の人々が、息を詰めてこの瞬間を見つめ、太陽が昇りきると同時に、ほーと一斉に息を吐くのが聞こえました。

この後、はいずるようにし

て頂上にたどりついたのは朝6時でした。周囲の眺望もさすがにすばらしいの一言でしたが、あの御来光を見た後ではすべてが色あせてしまっています。

下りの3時間もまた地獄の苦しみでした。急斜面で何度も転んで、最後は杖にすがってようやく歩くありさまでした。

バスに戻って初めてわかったのですが、この日、頂上まで行き着いたのは29人のうち9人だけだったそうです。特に夫婦、親子で参加された方は、皆さんどちらかを見捨てられずに、頂上を目前にして断念されたようで、我々単独参加者をうらやんでいました。しかしどこから引き返したにせよ、必死に頑張つて登りつめたその最後に見たあの御来光の美しさは同じです。むしろ、一人で感動するより、共に助け合ったあとで二人で手を取り合つて感動を分かち合えたのですから、こんな素晴らしいこととはそうそう味わえることではないでしょう。

あわただしい昼食と入浴のあと、帰り路はスィスイで3時間足らずで新



私は言いたい、『富士山に登らずして富士山を語るなかれ』と。